

六甲カトリック教会報

2006.9 No.417

9月のお知らせ

	教会暦	教会行事
1	金	初金 7:00 10:00 ミサ
3	日	年間第22主日 14:00 第4回結婚準備セミナー開始(9/24まで)
8	金	聖マリアの誕生
9	土	14:30 教会学校始業式
10	日	年間第23主日 秋の墓参(9時ミサ後)
13	水	聖ヨハネ・クリゾストモ司教教会博士
14	木	十字架称賛
15	金	悲しみの聖母
16	土	聖ヨハネバプティスタ司教殉教者
17	日	年間第24主日 13:30 大いに語ろう会(壮年会)
18	月	13:00 三日月会 ミサ(池長大司教)と総会
20	水	聖アンデレ金と同志殉教者 10:00 男の料理教室(壮年会)
21	木	聖マタイ使徒福音記者 14:00 ベタニアの集い
22	金	聖ピオ(ピエトリナ)司祭
24	日	年間第25主日 世界難民移住移動者の日
25	月	11:00 ベビーとママの集い
27	水	聖ビンセンチオ・ア・パウロ司祭
28	木	聖トマス西と15殉教者
29	金	聖ミカエル 聖ガブリエル 聖ラファエル大天使
30	土	聖ヒエロニモ司祭教会博士 14:30 教会学校ホールミサ

スペインを旅して

5月18日から29日にかけて、35名の方々と北スペインを巡礼する機会に恵まれました。関空からアムステルダムへ、そこからバルセロナに飛んで、あとはバスで旅行した。

最初は聖イグナチオが回心した後しばし祈ったと言われているマンレサにてミサ、その後彼が霊操を記したと言われるモンセラットを巡り、続いてバルセロナに戻って、ガウディで有名なサグラダファミリアと呼ばれる未だ完成されていない巨大な聖堂を見物、その天才的な建物に圧倒させられました。

次の日、日本に最初にキリスト教を伝えた聖フランシスコ・ザビエルの生地バリエル城に向

かい、その城の中にある聖堂にてミサを捧げました。

次にエルサレム、ローマと並ぶ世界三大聖地サンチャゴ・デ・コンポステーラへの道をブルゴス、レオンと進んで、聖ヤコブの聖地サンチャゴへと参りました。途中レオンに近い、9世紀に創建された男子ベネディクト会のサンタ・ドミンゴ・シロス修道院にて会員の皆さんと共に共同ミサを捧げることが出来たことは、巡礼団の皆さんも感激されたことと思います。

次の日、昔サンチャゴ巡礼の難所といわれたセブレイロ峠にある小聖堂でミサ。峠からの展望は緑いっぱいであり美しい素晴らしい景色でした。

サンチャゴに到着後、昔「修道院」、また巡礼者宿舎としても使用されていた、「施療院」とも呼ばれる建物の内部を、今日高級ホテルに改造したパラドールと呼ばれる宿舎に泊まりました。翌日 12 時より大聖堂にて共同ミサが行われ、聖堂は信者でいっぱい。私は他の神父と共に祭壇に立ちました。ミサの前、スペイン人の司式神父より「世界に広がるあなたの教会を思い起こし、私たちの教父～」を英語で称えて下さいと頼まれました。私は祭壇上で渡された小さな紙に小さな字で書かれている文字を大きな声で称えました。ミサが終わった後、日本の巡礼団のひとりから、ミサの中で祈ったあの祈りは何語で称えたのですかと尋ねられて、汗が流れました。

サンチャゴに 2 泊した後、ポルトガルに入って一路南下。ファチマを訪問、聖母マリアが出現したと言われる場所に建つ聖堂にてミサを捧げました。リスボンのホテルの窓からはエドワ

ルド 公園の美しい緑が一望でき、またジャカラングと呼ばれる紫色の花が咲いた並木が美しく眺められました。

ポルトガルでは、ヨーロッパの最西端口カ岬にて大西洋を一望し、また聖ザビエルが東洋に向かって船出したベレンの港を巡るなど、市内観光して 2 泊後の朝早く再び飛行機にて 29 日の朝、無事に帰国しました。

丁度この文章を書き終わった時、広報部の方から電話があり「敬老の日の巻頭言として何か書いてほしい」と言われました。それで最後の締めとして、『私は 9 月 8 日に 74 歳となり、また敬老の日にあたり、この年になってもカトリックの聖地を巡ることが出来ましたことを、巡礼に参加された皆様と共に神に感謝したいと思います。』と書き加えて、広報部の方の希望にお応えさせていただくことにしたいと思います。

安芸瑛一神父

各 部 会 だ よ り

📖 壮年会

男の料理教室 9月20日(水)

「大いに語ろう会」

9月17日(日) 13:30から イグナチオホール

講 師 木鎌安雄さん

テーマ 「アメリカ・カトリックの過去と現在」

講演の後、懇親会。どなたでもお越し下さい。

📖 婦人会

1) 掃除当番募集について

募集は9月初めから、約1ヶ月間です。各部会でも1つのグループを作って登録をお願い致します。今まで曜日、時間帯が合わなかった方も2ヶ月に1度ですので、どうかご協力よろしくお願い致します。

金曜日 午後1時30分

土曜日 午前9時30分

日曜日 11時ミサ後

2) 三日月会総会参加のお願い

9月18日(月)敬老の日 午後1時～3時

池長大司教様司式ミサのあと、「みんなで担う信徒奉仕職」の講話があります。皆様ぜひご参加下さい。

3) 9月の聖堂掃除当番

1日(金)中1・2

8日(金)中3・4

15日(金)中5・東1

22日(金)東2・3

29日(金)東4・5

いずれも午前9時からです。

掃除マニュアルが出来ました。倉庫の棚のそばにあります。また、黒板にも貼ってあります。

掃除用品で足りない物は、日付・地区・名前を書いて缶にお入れ下さい。

📖三日月会

総会

日時 9月18日(敬老の日)

13時 司教ミサ

「みんなで担う信徒奉仕職」の解説
総会・懇談会

📖青年会

<定例会>

9/10(日)12:30~14:00 第3会議室

内容:福音書を輪読して分かち合い

9/24(日)12:30~14:00 第3会議室

内容:福音書を輪読して分かち合い

初めての方も是非お気軽にご参加下さい!

📖典礼部

典礼奉仕者の集(6/11、18)の主な意見と対応

「自分の役割だけでなく他の係りの方の心づかいも知るために奉仕の内容を交換してミサをやってみたい」「いろいろな役割をやる事によって、その心を理解できるのでいろいろした方が良い」

典礼当番の役割変更を希望される方は、
典礼部のコーディネーターまで申し出て
ください。

「オルガンは歌っている方に引っ張られるのではなく、弾いていただきたい」「ミサ全体として歌のテンポが遅い」

7月19日に第1回のオルガン担当者研修会が実施されました。今後継続的に研修会が行なわれます。

「多くの子供たちに遅刻が見られる。やはり親の強い協力が望まれる」

以前よりいろいろな点で良くなっている
ので暖かく見守り、これからもサポート
をしていく。なお、大人の奉仕者が、その
場で気付いた事を注意して頂くように
お願いします。

7月30日の結城神父様の講演会に多数ご参加
いただきありがとうございました。また、お
手伝い下さった方々に感謝いたします。

📖養成部

「哲学入門」第一回

日時 9月23日10:30~12:00

場所 ザビエルハウス

講師 英知大学教授奥村和滋先生

受講料:一般1000円、学生300円

養成部有志が共同企画に加わったプログラム
で、激しく移ろう世の中にあって私たちは如何に
生きていくべきか、哲学の視点から学んでいけれ
ばと考えています。

次回予定:10月28日、11月25日、1月27日

📖社会活動部

9月1日(金)11:00~(初金ミサ後)第2会議室
社会活動部連絡会

今後の予定等話し合いたいと思います。

各グループの代表の方、及び、活動に興味を
お持ちの方、是非ご出席を御願い致します。

9月6日(水)10:00~ 於:第1,2会議室
手芸の集い

バザーに向けて、小物を作ります。

手作りのお好きな方、ご参加下さい。

9月8日(金)19:00~ 於:御聖堂

「水谷先生の講演会」

社会活動部では当日準備、後片付け等を担当
する事になっています。

お話を聞かれるだけでなく、是非お手伝いも
宜しく御願い致します。

9月9日(土)

炊き出しの日ですが、六甲教会の今月の担当
はお休みです。次回の当番日には又、ご協力を
御願い致します。

9月17日(日)10:00~ 於:イグナチオホール
手作りコーナー

毎回好評のお弁当ほか、手作りの食品、手芸
品等を販売致します。

ミサの後、是非ホールにお立ち寄り下さい。

9月21日(木)14:00~

於:小聖堂 & イグナチオホール
ベタニアの集い (聖体拝領式と懇親会)

まだまだ残暑の厳しい日が続いておりますが、
お元気な顔をお見せ下さい。追ってご案内
をさせていただきます。

9月22日(金)14:00～ 於：教会台所

お握り作り

須磨方面、夜回り支援の為に作ります。ご協力をお願い致します。

📖 広報部

教会報8月号では、各部だよりに情報の掲載漏れが生じ、養成部をはじめとする皆様方に御迷惑をおかけしましたこと、書面にてお詫び申し上げます。今後はこの様なことがないように努力してまいりますので、変わらずご協力の程、よろしくようお願い申し上げます。

📖 図書紹介 「コーラス」

フランスで上映され、空前のヒットとなった映画「コーラス」の脚本の書である。よい映画だったと聞き、本を見つけて何度か読み返していたが映画は見られなかった。最近衛星放送で放映され、やっと見る機会を得た。この本が私をぐいぐいと引き付けるものであった通り、映画もまた心を動かされるものだった。

第二次大戦が終わったフランス、主人公は大きな夢にやぶれ落ちぶれた中年の音楽教師である。問題児の集まりである寄宿舎学校の舎監になるが、問題児である生徒も、暴君のような校長をも恐れている。そんな彼は自分の作曲した楽譜の入ったファイルを大切に鍵のかかる棚に隠す。その楽譜は自分のおかれている現実から逃避するパスポートのようなものだった。しかし彼は少年たちと合唱団を組織し、みんなの歌声が調和して天使のような歌声を響かせているうちに、問題児だった生徒とも心が通い合うようになる。大切だった楽譜はもう必要ではない。

角川文庫

クリストフ・バラティエ脚本

佐野 晶編訳

夢は壮大でなくてよい、小さくても心が満たされれば無駄ではない、生徒たちが何よりの希望であり夢であると悟る。

各地でテロが起こり、戦争は絶えず、国内では親が子を殺し、子が自宅に放火する。このような現代にあって、どうして「コーラス」が感動を呼びヒットしたのだろうか？

主人公の教師は、教壇の上で明かりを灯したのだった。その灯りは暗闇の教室を照らし、ずさんでいた生徒の心を温めた。ヒットの理由は、人の心の本質、神の似姿に創られた人の心を描いたものだからだろう。主人公の生き方は、キリスト者の生き方、また私たちの生き方でもなければならぬと思った。

本では映画のように心をうつ歌声こそは聞こえてこないが、心を静めてこの本を読むなら静かに鳴り響くものを感じるだろう。

(大倉)

良い本と出会ったら、皆さんとも分かち合いたいですね。
「図書紹介」欄では、皆さんからのご寄稿をお待ちしています。
また、購入希望の本がありましたら、是非、図書室のみどりの
投稿箱にお入れ下さい。 図書係

信仰と聖書の勉強会担当者の集いの報告

去る7月15日(土)10時~12時、六甲教会で信仰入門・聖書研究などのクラスを担当している方々(司祭、信徒、シスター)10名が集まり、下記のようなことについて分かち合いの時を持ちました。

1)参加者、進め方(分かち合い形式、あるいは講義形式など) 内容(聖書、教義、典礼など) 日本の文化への適応の工夫(自分の言葉で、生活に結びついて)など

2)これらを通して、私たちが参加者の方々に本当に何を伝えようとしていますか。

又、参加者の方々から、何を学びましたか。

3)私たちは、どんな時に喜びや困難を感じていますか。

以上3点について分かち合いの内容を簡単にご紹介しましょう。

- 福音書(マタイ、ルカ)を使って、歴史、出来事、現代社会との関連性の中で、瞑想も入れながら、キリスト者の生き方を学んでいる。参加者の態度から、いろんなことを知って興味深い。共同体意識の深まりを感じながら、カトリックのカテキズムを輪読している。あと40回で読み終える予定で、頑張っている。

<分かりやすく>をモットーに、ユーモアも交えて、イエスのご生涯を、福音書から学び、キリストの教えを自分のものにして、生活の中で生かせるよう努力している。

聖母マリアについて、旧約聖書から説明して、今の私たちの生き方に繋げるよう気を配っている。

信者の方が、基礎的な信仰の土台を知らない場面に遭遇したので真面目に教えなければと気づいた。

信仰と生活の遊離している信者が多い現実の中で、30~50代の方が、仕事帰りの夜の時間に見えて、真剣に求めている姿に喜びと希望を感じている。

もう一度信仰の基礎を学んでいただく必要を感じ、カトリックの教えをもとに、自分でテキストを作り、話を進めている。分かち合いや質問も入れたら、活気が出た。

典礼に沿った聖書の箇所を深読し、そこからミサと使徒信条の内容に触れながら、日常をミサの恵みに生かされ、信仰の土台をしっかりとさせる工夫をしている。共に祈る機会も作っている。

この集まりに、出られなかった方は、夜の時間に、若者中心に集まりを持っておられたり、ベビーとママや結婚講座、聖書の輪読会などをなさったりしているそうです。

地区集会の形で、信徒がご自分の家を開放し、そこで聖書の分かち合いを始めたグループについては、8月の教会報に掲載されました。

この集まりを通して、私たちは、次のような問いかけを感じました。

私は、神への信仰を、自分の言葉で伝えているでしょうか？

日常での神との交わりが、希望と喜びになっているでしょうか？

私の言葉と行いが、周りの人々に、福音を証ししているでしょうか？

今後のために

- ・大阪教区の方針でもある、信徒の時代を担うリーダー養成のために、六甲教会も養成費の負担や後継者探しに努力したいと、主任司祭からお話がありました。
- ・この集まりの連絡係として、シスター出口とその協力者・藤原さんが決まりましたので、宜しくお願い致します。

この集まりを年に2回ぐらいすることになり、次は来年2月頃を予定しています。

(出口)

「イグナチオ・ロヨラ帰天 450 年記念講演会」に参加して

7月30日、六甲教会でこの講演会があると知り、大阪から来させて頂きました。

私が初めて聖イグナチオの名前を知ったのは、「イグナチオ・ロヨラの祈り」を手にした事からでした。結城神父様から聖イグナチオの生涯を伺いながら、聖イグナチオはまさしくあの祈り通りの聖人であったと感銘しました。聖イグナチオは、兵の大砲の弾で足を負傷し、家族の下で「聖人伝」と「キリスト伝」を熱心に読み、心に大きな喜びと平安が与えられたようです。世俗の楽しみを思う時、一時的には喜びがあるが、その後虚しさが残り、聖人伝の本を読み神を思う時、その喜びは読んだ後も続き、次第に神に従う道を選びとっていったようである。聖イグナチオはよく祈り、黙想し、霊操に入り、神の御旨を生きようと全ての信頼を神に置いた人のように思います。また、ザビエルや仲間たちにとっては「真の父親」としての愛を感じとっていたようです。聖イグナチオは遠く離れた異国の地に派遣する仲間たちを心から信頼し、地の果てまで宣教が行われました。日本の地にも福音が伝えられました。多くの宣教師たちの流した汗と涙と血のおかげで、私たち信者の今日があるように思います。

私はこの講演会を通して、神の前でも人の前でも謙虚である事、信頼しあい仕えあう事の中に神の御旨が果たされるように思いました。また、聖イグナチオのように全てをささげる事ができなくても、もう一度自分の生活を振り返り、今の自分に出来る「ささげる」という意味を考えてみたいと思いました。

(北野カトリック教会 大西)



講演 イエズス会 川村信三神父様「ザビエルの去ったあと」(8月12日)

1865年3月17日、居留地在住フランス人のために建設されたばかりのカトリック教会堂「日本二十六聖人教会」(通称大浦天主堂)を15名ほどの浦上在住民が訪れました。当時、この珍しい西洋建築「フランス寺」を見物に訪れる日本人が多かったようです。

神父は彼らを招き入れ、祭壇の前に祈りを捧げ始めました。と、三人の女性が神父に近づき、初老の女性が胸に手を当てて日本語でささやきました。

われらのむね、あなたのむねと同じ

「本当ですか？」と問いたずら神父に、耳を疑う言葉が続きました。

サンタ・マリアの御像はどこ？

ザビエルによって蒔かれた種が、実に250年に及ぶ長く厳しい冬を耐え忍び、再び芽を吹いた瞬間でした。

このような奇跡が起こった理由として、神父様は二つの重要な点を指摘されました。一つはザビエル来日当時の日本に一神教を受け入れる土壌があったことです。苛酷で不条理な戦国社会を生き抜かねばならなかった農民たちは「惣村」という自治組織を作り、蓮如によって再興された浄土真宗をひたすら信じて強い心の絆で結ばれていました。彼らが社会の不正に対して戦った「一向一揆」は為政者を最も悩ませた存在でした。浄土真宗の持つひた向きさはキリスト教を受け入れる大きな素地になりました。そして農民の布教組織「講」は、13世紀イタリアにできた「コンフラリア」と呼ばれる信徒共同体と驚

くほど共通点を有していました。これが司祭不在の250年間、信仰を生かし続けた土壌となったのです。

250年の歳月を経て全く異質の民間信仰へと変化し、カトリックに戻ることのなかった隠れキリシタンが多かったのに対し、すぐに神とのつながりを取り戻した信者たちには、ある共通点がありました。それは「こんちりさんのりやく」を大切に写し伝えていたことです。これはイエズス会によって1590年代に出版された本で、赦しの秘跡に関する重大な例外規定が記されていました。当時日本のカトリック信者は22万5千人、司祭は43人（！）でした。誰もが毎年赦しの秘跡をうけることなど到底不可能だったのです。そこで、まず心からの痛悔 = *contritio* をし、いずれ後から告白して秘跡を受けることをローマ教会のお墨付きを得て本にしたものでした。そして禁教後、隠れ信者たちは赦しの秘跡を受けられる日が訪れることを心から信じて250年間待ち続けたのでした。 (養成部 山本)

かのサビエル聖人が2年余の滞日布教のあと、数十年で、わずか40数人の伴天連（神父）により全国で20数万人もの人々を神の教えに導いたという、簡単に言えば、5千人に一人の司祭に頼っていた信徒たち。信徒側にすればいつ次に、伴天連がわが村を訪れ、赦しの秘跡を授けられ、聖祭にあずかれるのか、一方、伴天連はいかにより多くの人に神の国を説く手立て、をと両者とも必死であったに違いない。当時は上意下達式だから上がこけたら下も、とよく耳にするが、とんでもない。多くのキリシタンたちは村々でコンフラリア（共同体）、すなわち仏式「講」組織を創り、キリストの火を絶やさずに、自分たちで守りぬくための「講」を作ったのである。7代待てば必ずパードレ（神父）がわが村に、を合言葉に二百数十年もの長きにわたり教えを守り抜いたキリシタンたち。現代に生き同じ信仰を持ち、同じ問題を抱える私たち信徒一人一人に大きな一石を投げかけた「もう一度聴きたい講演のひとつ」であった。 (夙川カトリック教会 太田)

合同平和礼拝（8月13日）

今年の合同礼拝は新港教会、神戸聖書教会、近畿福音ルーテル教会の合同で行われました。説教は川村神父様の「平和とゆるしあう心」で、ヨハネによる福音19章1～7、16b～22、28～30が読まれました。実際に犯罪被害に遭った人々の感情を例に挙げられ、赦すことがいかに難しいかを考えました。

そして、受難の場で相手のために祈るイエスが、私たちに赦しの心を教えてくださっていることが説かれました。すなわち、相手の心に悔恨の情が生じることを相手のために神に祈ることこそが赦しの最も大きな第一歩であることを教えてくださっているのです。

「父よ、彼らをお赦しください。自分が何をしているのか知らないのです」というイエスの言葉の深さを改めて学んだ礼拝でした。 (養成部 山本)

祈りの千羽鶴と教区平和旬間行事(8月13日)

7月23,30日の両日には、祈りの千羽鶴つくりにご協力頂き有難うございました。シナピス神戸(神戸地区社会活動部・修道会)全体で9000羽という驚くほどの数になりました。本日、教区平和祈願ミサで奉納致しました。今年は教区から長崎に届けられます。

今年の平和祈願ミサの第1部は賢明学院生徒とOBによるハンドベル、青年達による詩の朗読と歌、池長大司教と有志の司祭達によるコーラスがありました。言葉と音楽が一人一人の心の中に染み通り、平和祈願ミサでは「主よ、わたしをあなたの平和の道具にしてください。」と皆、心をひとつにして祈

りました。

青年達が朗読してくれた自爆攻撃に巻き込まれた少女の詩を紹介したいと思います。 (長瀬)

「戦争と平和」 (バット・ヘン・シャハク)

戦争とは残酷なもの。
戦争はわたしたちに与えられたもっとも美しいものを奪いとる。
もっとも美しいもの、それは命。
戦争のせいで子供を失った母親たちがいる。
母親たちは、お墓の前に立ち、まるで信じられず、
ひっそりと胸のおくで ほんとうは何も起きていない、
それはただの悪い夢なのだと、思いこもうとしている。
戦争のせいで親をうしなった みなしごたちがいる。
そして生き残った人たち、兵士たち
あの人たちも以前とは変わってしまった。

聖母の被昇天の祭日(8月15日)に受洗された方から、

受洗の喜びのメッセージが届きました。

皆さんはじめまして。桜井神父様のご指導の下、8月15日に洗礼式を終え、新しく仲間になりました前野と申します。洗礼式を迎えるに当たり桜井神父様にはお忙しい中懇切にご指導頂き、非常に感謝しております。

ここ数年、近い人々との別れが続き、自分自身色々考えることが多くなり、今回洗礼を受けることを決意しました。洗礼を終えて、新鮮な気持ちで日々の生活を送ってゆきたいと考えています。今後ともよろしく願い申し上げます。 (前野)

今年1月に初めてミサに与り、2月から桜井神父様の講座で教わってきました。聖書にどんどん惹きつけられて、気持ちの在り方や生活に結びつけたいと思うようになりました。

洗礼式で聖水の冷たさと炎の熱さが特に印象に残り、入信の実感になったと思います。頂いたたくさんのお力添えに応えることにつながるような過ごし方ができますように、と思っています。

どうぞよろしく願いいたします。 (青地)

納涼の夕べ

今年も六甲教会の夏の大イベントである納涼の夕べが8月19日に開催されました。途中小雨がパラついた時もあったのですが、夜店に並ぶお客さんは途絶えることなく、音楽演奏の方も大好評のようでした。子供たちから大人まで皆にとって心に残る夏の楽しい思い出になったと思います。

また、準備の時や片付けの時のみんなのチームワークの素晴らしさも大変印象的で、六甲教会のあたたかさ、仲の良さ、明るさをいっぱい見せてもらったという思いです。 (青年会 長田)



~~~~~

## 9月18日 三日月会総会へのお誘い

教会報 8月号で既にご存知の事とは存じますが、9月18日(敬老の日)13:00から池長大司教司式によるミサに引き続き「みんなで担う信徒奉仕職」の在り方について講話を願う事になっております。

世間では夫婦が子供の成長に合わせて行う教育が自由の名の下に放任され、親も基準を見失って正しく導く事が出来ない場合や、親の望みを強く押し付けたり、親の基準が間違っていたりして子供を間違った方向に進むがままにしていた為に事件を起こす結果となっていますが、我が子の教育にしてもどうするのが良いのかを正しく自信が持てる様にするには何を基準を考えねばならないのか、しからば子供のわがままにどの様に対処すべきなのか、等々カトリックの幼児教育の指針を示す事を一つ取り上げて老若男女が協働するテーマとなるのではないのでしょうか。

信仰を共にする我々は価値観においても同じであるはずだが、多少の違いがあったにせよ目標として掲げる姿は一つになるのではないか。

池長大司教の講話がどのように展開されるのか判らないが、信徒が自主性をもって教理から逸脱しない方向を探求するバイタリティに満ちたグループ活動によって正しい道を切り開く事が期待されるのではないのでしょうか。  
(三日月会 馬場)

|                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                         |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>教会報月 10月号の発行は、10月1日(日)です。<br/>編集会議は9月24日(日)です。<br/>記事原稿は、9月17日(日)正午までに信徒会館事務室へご提出願います。<br/>(広報部)</p> <p><a href="http://www.rokko-catholic.jp">http://www.rokko-catholic.jp</a></p> | <p><b>六 甲 カ ト リ ッ ク 教 会</b><br/>〒657-0061 神戸市灘区赤松町 3-1-21<br/>電 話 078-851-2846<br/>発行責任者 桜井彦孝 神父<br/><br/>編 集 広 報 部</p> |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|